

2007年（平成19年）の日本の天候（速報）

本資料は、全国153地点の气象台・測候所などにおける12月20日までの観測データをもとに、速報としてまとめたものです。確定値による資料は平成20年1月4日に発表します。

2007年（平成19年）の特徴：

○年平均気温は全国で高く、西日本、沖縄・奄美ではかなり高かった

年平均気温平年差は北日本+0.7℃、東日本+0.8℃、西日本+1.0℃、沖縄・奄美+0.6℃で、特に西日本では地域平均統計のある1946年以降で第3位、沖縄・奄美では第2位タイの高温となった。4月と7月に低温となったが、1月、2月、8月、9月には顕著な高温となるなど全般に月平均気温が高い月が多かった。

○記録的暖冬・少雪

平成19年の冬は期間を通じ冬型の気圧配置は一時的で、全国的に気温が高く経過した。東日本と西日本の地域平均気温は、地域平均の統計のある1946/47年の冬以降で最も高く、全国153の気象官署のうち東京、名古屋、大阪などの63官署で、冬平均気温の高い記録を更新した。また、全国的に降雪はかなり少なく、冬の降雪量は、北陸地方で平年の9%となるなど、北日本、東日本、西日本日本海側の降雪量は地域平均の統計のある1961/62年冬以降で最も少なかった。

○8月は各地で記録的な高温となり9月の残暑も厳しかった

8月は太平洋高気圧の勢力が強く、全国的に記録的な高温となった。8月16日に熊谷（埼玉県）と多治見（岐阜県）で、ともにこれまでの国内最高気温の記録を更新する40.9℃が観測されたほか、101地点（アメダスを含む821地点中）で観測史上1位の記録を更新した。9月も引き続き太平洋高気圧の勢力が強く、9月平均気温は西日本で地域平均統計のある1946年以降で第1位の高温となった。

○年降水量は全国的に少なく、西日本を中心に渇水となった

年降水量は全国的に少なかった。春から6月にかけて西日本を中心に高気圧に覆われやすかったため少雨が続く、一部では渇水となった。その後、梅雨前線や台風の影響で少雨状況は解消したが、秋以降は再び高気圧に覆われやすかった西日本で顕著な少雨となった。

○梅雨入り、梅雨明けともに遅れた

6月から7月にかけては太平洋高気圧の日本付近への張り出しは平年より弱かった。このため、6月は移動性高気圧に覆われる日が多く各地で梅雨入りが遅れ、7月は梅雨前線が本州付近に停滞し各地で梅雨明けが遅れた。

○台風の発生数、接近数、上陸数は平年程度

台風発生数は24個（平年26.7個）、接近数は12個（平年10.8個）、年間上陸数は3個（平年2.6個）といずれも平年程度だった。7月中旬には台風第4号が九州に上陸しその後本州南岸沿いに北東進し、停滞していた梅雨前線の影響も加わり沖縄・奄美から東北南部にかけての各地で記録的な大雨となった。

1 概況

平成 19 年冬は冬型の気圧配置は長続きせず、全国的に気温が高く経過した。東日本と西日本の地域平均気温は、地域平均の統計のある 1946/47 年の冬以降で最も高く、全国 153 官署のうち 63 の気象官署で、冬の平均気温の高い記録を更新した。また、山陰以北の日本海側の降雪量は地域平均の統計のある 1961/62 年の冬以降で最も少なく、北陸から山陰にかけての冬の降水量も少なかった。一方、1 月上旬に東日本から北日本の太平洋沿岸を低気圧が急激に発達しながら北上したため、大雨や暴風により大きな被害が発生するなど、低気圧の影響で北・東日本の太平洋側で多雨となった。

春は全国的に気温の変動が大きかった。4 月の月平均気温は西日本を除き 1 年ぶりの低温となったが、春の平均気温は 3 月の高温が著しかったため、東・西日本で高く北日本と沖縄・奄美は平年並となった。また、前線が平年に比べ南に位置し移動性高気圧に覆われやすかったことから、西日本から東日本太平洋側にかけて降水量が顕著に少なかった。前線が停滞しやすかった沖縄・奄美では日照時間が少なかった。4 月から 5 月にかけては上空を寒気が通過しやすく大気の状態が不安定となったため落雷や突風、降雹による被害が発生した。

夏の太平洋高気圧の日本付近への張り出しは、6 月、7 月は平年より弱く、8 月は一転してかなり強かった。夏の平均気温は、7 月に北・東・西日本で低温となったものの、6 月の北日本や 8 月の東・西日本で顕著な高温となったため全国的に高温となった。6 月は中旬まで移動性高気圧に覆われて各地で梅雨入りが遅れたため降水量が少なく、春からの西日本を中心とした少雨は 6 月も続き一部では渇水となった。7 月は本州付近に梅雨前線が停滞し、台風第 4 号の影響もあって東・西日本では降水量が多かった。一方、8 月は非常に優勢な太平洋高気圧が本州付近を覆ったため、北・東・西日本では顕著な高温・多照となり、太平洋側では少雨となった。8 月 16 日には熊谷(埼玉県)と多治見(岐阜県)で日最高気温 40.9℃が観測され、これまでの国内の気温の最高記録を更新した。

秋は 10 月上旬まで日本の南東海上の太平洋高気圧が平年に比べかなり強く、また日本付近で偏西風が北に蛇行したため、東日本や西日本では晴れて気温の高い日が続いた。また、台風や熱帯低気圧の影響で東日本から北日本の太平洋側や沖縄・奄美では降水量が多かったが、秋雨前線は全般に不活発で、台風の影響の少なかった東日本日本海側や西日本で少雨となった。10 月中旬以降は寒暖の変動が大きくなり、11 月後半の強い寒気南下により北・東日本の山沿いで 11 月として記録的な積雪となった所もあった。秋の平均気温は全国で高く、西日本では地域平均の統計のある 1946 年以降で最も高い記録となった。また、西日本の降水量は 1946 年以降で最も少ない記録を更新し再び一部で渇水となった。

2 気温、降水量、日照時間等の気候統計値

(12 月 20 日までのデータによる)

(1) 平均気温

年平均気温は、全国的に高く、西日本と沖縄・奄美ではかなり高かった。西日本では平年を 1℃以上上回ったところが多かった。宇都宮、名古屋(愛知県)、高松(香川)、福岡、熊本など 20 地点で年平均気温の最高値を上回っている(ただし、これらは 12 月 20 日までの観測値を使った集計結果であるため、年末までのデータを加えた確定値では最高値を上回る地点数は少なくなる可能性がある)。

(2) 降水量

年降水量は、東日本と西日本日本海側で少なく、北日本日本海側と西日本太平洋側ではかなり少なかった。北日本太平洋側と沖縄・奄美では平年並だった。西日本では平年の80%未満となったところが多く、四国地方の一部では平年の60%未満となった。北見枝幸（北海道）、深浦（青森県）、徳島、福江（長崎県）など6地点で年降水量の最小値を下回っている（ただし、これらは12月20日までの観測値を使った集計結果であるため、年末までのデータを加えた確定値では最小値を下回る地点数は少なくなる可能性がある）。

(3) 日照時間

年間日照時間は、東日本太平洋側と西日本日本海側で多く、西日本太平洋側ではかなり多かった。一方、北日本と東日本日本海側では平年並、沖縄・奄美では少なかった。父島（東京都）では、年間日照時間の最小値を下回っている。

地域平均平年差（比）と階級（2007年）（12月20日までのデータによる）

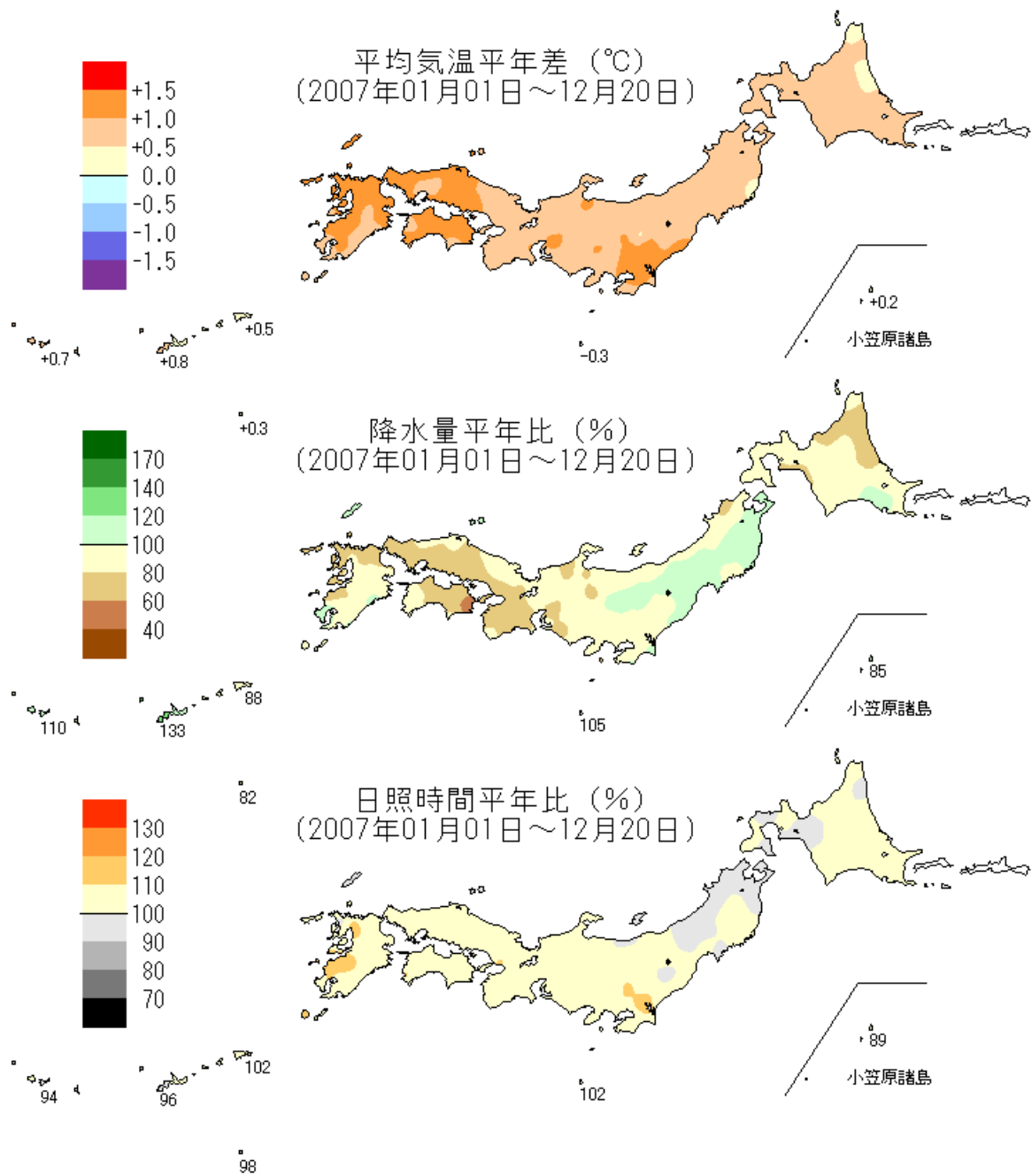
	気温 平年差 ℃(階級)	降水量 平年比 %(階級)	日照時間 平年比 %(階級)		気温 平年差 ℃(階級)	降水量 平年比 %(階級)	日照時間 平年比 %(階級)		
北日本	0.7 (+)	93 (-)	101 (0)	北海道	0.7 (+)	86 (-)*	102 (0)		
		日 89 (-)*	日 100 (0)			日 87 (-)*	日 101 (0)		
		太 95 (0)	太 102 (0)			オ 76 (-)*	オ 102 (0)		
						太 90 (-)	太 103 (0)		
東日本	0.8 (+)	88 (-)	105 (+)	東北	0.8 (+)	101 (0)	100 (0)		
		日 86 (-)	日 101 (0)			日 96 (0)	日 99 (0)		
		太 89 (-)	太 106 (+)			太 105 (0)	太 101 (0)		
西日本	1.0 (+)*	80 (-)*	106 (+)*	関東甲信	0.9 (+)	93 (-)	106 (+)		
		日 81 (-)	日 105 (+)			北陸	0.8 (+)	86 (-)	101 (0)
		太 80 (-)*	太 107 (+)*					東海	0.8 (+)
		近畿	0.8 (+)	78 (-)*	105 (+)				
				日 91 (-)	日 103 (+)				
				太 73 (-)*	太 107 (+)				
沖縄・奄美	0.6 (+)*	105 (0)	98 (-)	中国	1.0 (+)*	78 (-)	103 (+)		
						陰 86 (-)	陰 102 (0)		
						陽 69 (-)*	陽 104 (+)		
				四国	1.1 (+)*	77 (-)*	107 (+)*		
						九州北部	1.1 (+)*	77 (-)*	107 (+)
								九州南部 ・奄美	0.8 (+)*
				本	0.9 (+)*				
						奄	0.4 (+)		
								沖縄	0.6 (+)*

階級表示 -:低い(少ない) 0:平年並 +:高い(多い) 地域表示 日:日本海側 陰:山陰 本:本土(九州南部)
 *はかなり低い(少ない) かなり高い(多い)を表す オ:オホーツク海側 陽:山陽 奄:奄美
 太:太平洋側

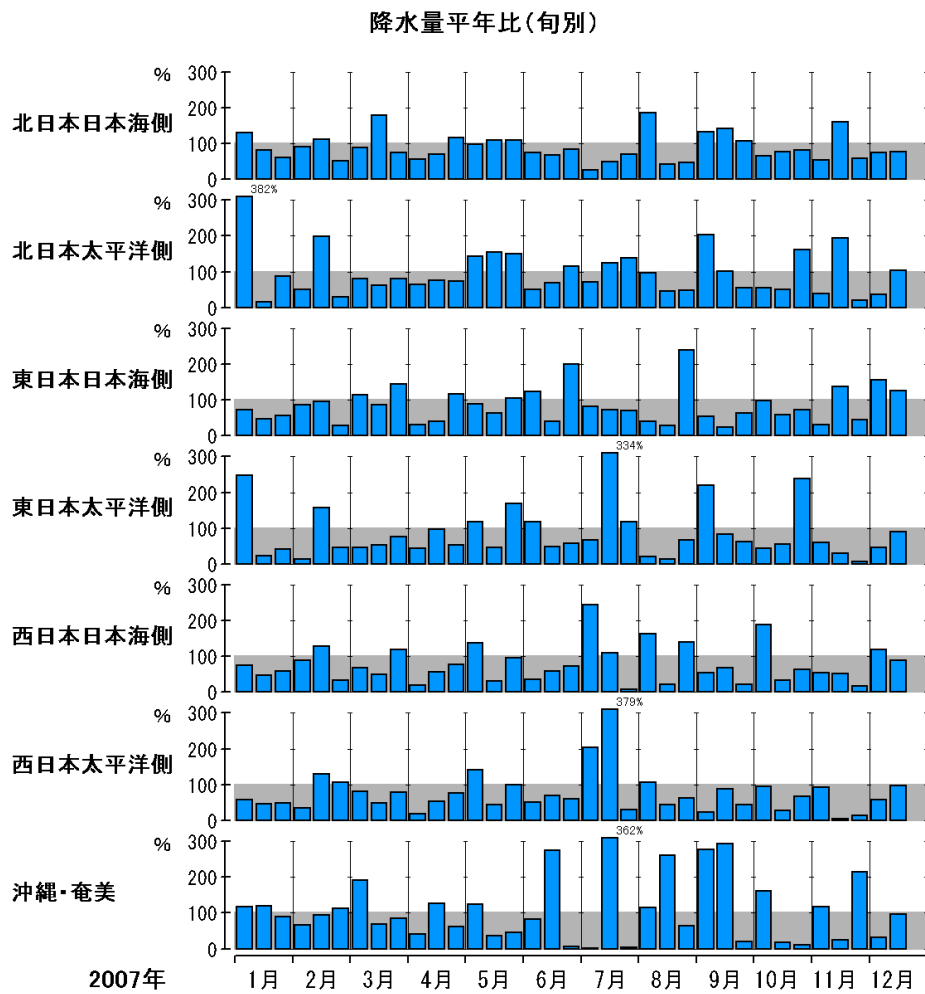
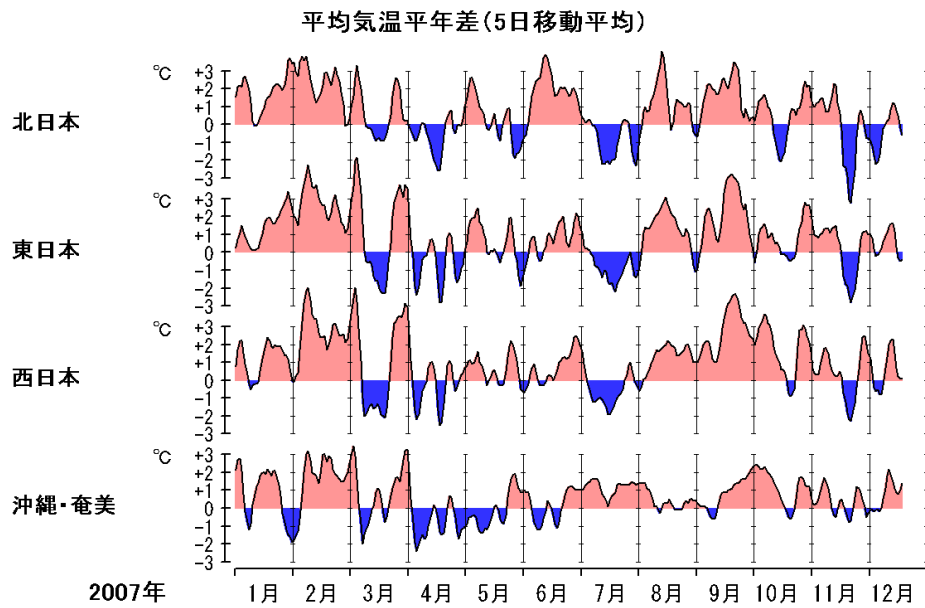
(注)・基礎となるデータは全国の気象台・測候所等での観測値で、観測所数は153地点である。このうち、降雪の深さ、最深積雪については、観測を行っている116地点が対象である。

・「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の階級は、1971～2000年における30年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる(各階級が10個ずつになる)ように決めている。また、値が1971～2000年の観測値の低位または上位10%に相当する場合には、「かなり低い(少ない)」「かなり高い(多い)」と表現する。

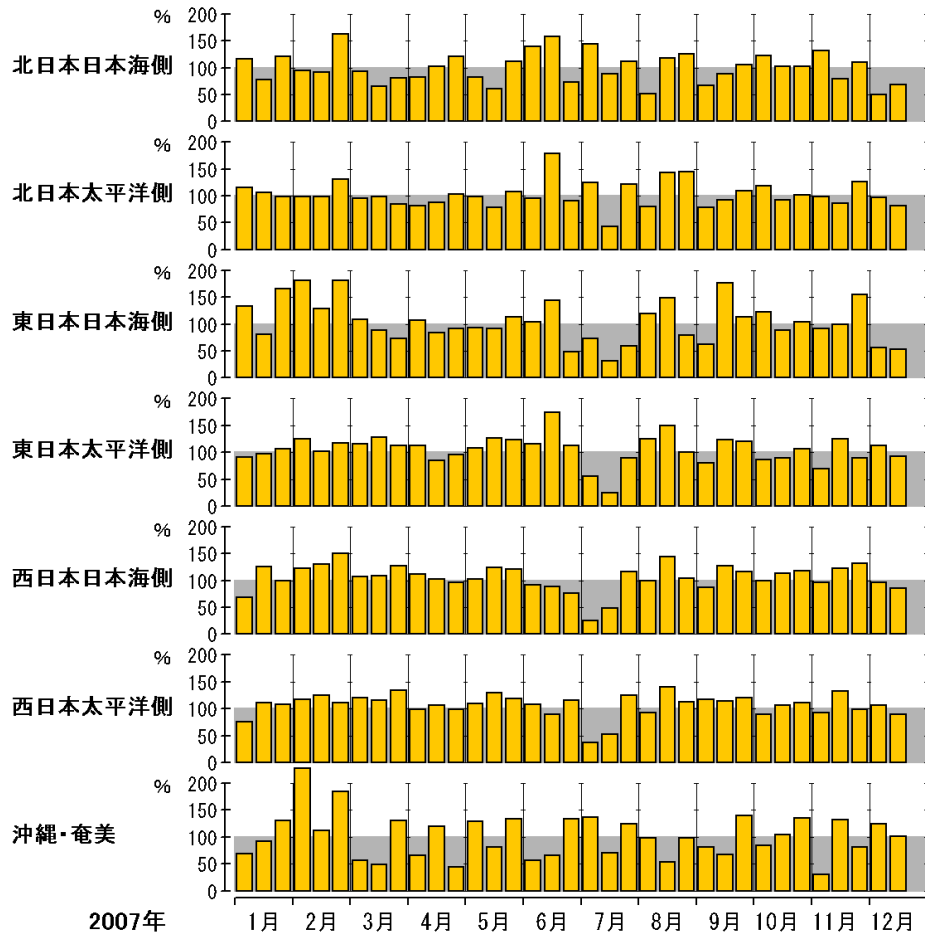
平年差（比）図（2007年）（12月20日までのデータによる）



地域平均平年差（比）の経過（12月20日までのデータによる）



日照時間平年比(旬別)



観測史上1位の値（月、3か月、年別値）の更新地点数

- ・値は1位を更新した地点数でタイ記録は含めない、タイ記録がある場合には「値タイ」として横に併記した
- ・地域は更新およびタイ記録の地点数の合計が5以上のとき記載した

	平均気温		降水量		日照時間		降雪の深さ	最深積雪
	最高	最低	最大	最小	最大	最小	最大	最大
1月	11、4タイ 北・東・西日本	0	0	4	2	0	0	0
2月	17、7タイ 北・東・西日本	0	0	0	9 北・東・西日本	0	0	0
冬	63、12タイ 北・東・西日本、沖 縄・奄美	0	0	2	3	0	0	0
3月	0	0	0	0	0	2	1	0
4月	0	0	0	9 東・西日本	0	0	1	1
5月	0	0	1	1	2	0		
春	0	0	0	3	1	2		
6月	5、2タイ 北日本	1	0	2、1タイ	3	1		
7月	2、2タイ	0	2	1	0	0		
8月	2、3タイ 東・西日本	0	1	1	1	0		
夏	1タイ	0	0	0	0	0		
9月	64、9タイ 北・東・西日本	0	1	1	1	3		
10月	11、4タイ 西日本、沖縄・奄美	0	0	1	0	0		
11月	0	0	2	5 西日本	0	0	0	1
秋	25、10タイ 西日本	0	1	9、1タイ 東・西日本	4	1		
年(速報) (2006年)	20、20タイ 北・東・西日本	0	0	6 北・西日本	0	1		

3 季節別の天候経過

冬（2006年12月～2007年2月）：

- 全国で顕著な高温
- 全国で記録的な少雪、東・西日本海側で少雨
- 北・東日本太平洋側で多雨

12月上旬の北日本や1月末から2月初めに沖縄・奄美で低温となった他は、全般に寒気の影響を受けにくく、冬型の気圧配置は長続きしなかった。このため全国的に気温が高く経過した。東日本と西日本の地域平均気温は、地域平均の統計のある1946/47年の冬以降で最も高く、全国153官署のうち秋田、仙台（宮城県）、東京、名古屋（愛知県）、大阪、高松（香川県）、福岡など63の気象官署で、冬の平均気温の高い記録を更新した。また、山陰以北の日本海側の降雪量は、地域平均の統計のある1961/62年の冬以降で最も少なく、北陸から山陰にかけての冬の降水量も少なかった。

冬の前半を中心に本州の南海上を低気圧や前線が通過することが多かった。12月下旬と1月上旬に、東日本から北日本の太平洋沿岸を、低気圧が急激に発達しながら北上したため、大雨や暴風により大きな被害が発生した。これらの低気圧の影響で北・東日本の太平洋側で多雨となった。また、冬の後半を中心に移動性高気圧に覆われる日が多かったため、本州の日本海側と沖縄・奄美では日照時間が多かった。

平均気温は、全国でかなり高かった。降水量は、北・東日本太平洋側で多く、東・西日本日本海側で少ない他は平年並だった。日照時間は、北・東・西日本日本海側と沖縄・奄美で多い他は平年並だった。

春（3～5月）：

- 気温の変動が大きかった
- 東日本太平洋側と西日本で少雨・多照、北日本は寡照
- 東日本中心に雷が多発

10日～20日程度の周期で寒気が流れ込み、全国的に気温の変動が大きかった。4月は、日本付近に寒気が南下しやすかったため、月平均気温は西日本を除き1年ぶりの低温となった。春の平均気温は、3月初めと3月下旬の高温が著しかったため、東・西日本で高く、北日本と沖縄・奄美は平年並となった。上空の寒気が日本海から北日本方面に流れ込みやすかったため、北日本では、3月中旬の冬型の気圧配置やその後の短い周期での低気圧通過の影響で、平年と比べて曇りや雨または雪の日が多く、日照時間は日本海側を中心に少なかった。

また、偏西風の蛇行により日本付近が気圧の谷となったため、前線は平年より南の沖縄付近に停滞することが多く、低気圧は南海上を離れて通過する一方、移動性高気圧が東シナ海から本州付近を通過することが多かった。このため、西日本から東日本太平洋側にかけては平年と比べて晴れの日が多く、降水量がかなり少なかった。特に、東海から九州地方にかけては降水量が平年の60%未満のところもあり、尾鷲（三重県）、米子（鳥取県）、高知では春の降水量の最小値を更新した。一方、3月から4月にかけては、前線が付近に停滞しやすかった沖縄・奄美で日照時間が少なかった。

4月から5月にかけては、たびたび上空を寒気が通過したため、東日本を中心に各地で大気の状態が不安定となり、落雷や突風、降雪による被害が発生した。

平均気温は、東日本と西日本で高く、北日本と沖縄・奄美で平年並だった。降水量は、北日本では平年並の他は、東日本、西日本、および沖縄・奄美で少なかった。日照時間は、北日本と東日本

日本海側で少なく、東日本太平洋側と西日本ではかなり多く、沖縄・奄美では平年並だった。

夏（6～8月）：

○月毎に気温の変動が大きかったが、夏平均では全国高温

○8月16日に国内最高気温の記録更新の40.9℃

○降水量は地域や期間で変動が大きかった

○台風の発生は少なく7個だったが、2個が上陸

太平洋高気圧の日本付近への張り出しは、6月、7月は平年より弱く、8月は一転して強かった。夏平均気温は、7月に北・東・西日本で低温となったものの、6月の北日本や8月の東・西日本で顕著な高温となったため、全国で高温となった。

6月は、中旬まで移動性高気圧に覆われて晴れる日が多く、各地で梅雨入りが遅れるなど、沖縄・奄美など一部の地方を除き気温が高く、降水量が少なく、また日照時間が多くなった。春から続いた西日本を中心とした少雨は6月も続き一部では渇水となった。7月に入ると一転して本州付近に梅雨前線が停滞したため、曇りや雨の日が続き、台風第4号の影響も大きかった東・西日本では降水量が多くなった。大陸からの寒気が日本海に流れ込み、北・東・西日本では気温が低くなったが、オホーツク海高気圧の出現はほとんどなく顕著な低温とはならなかった。8月は、初め北日本と西日本で一時ぐずついたものの、その後は優勢な太平洋高気圧が本州付近を覆った。このため、各地で猛暑日になるなど晴れて暑い日が続く、北・東・西日本では気温が高く、日照時間が多くなり、太平洋側では降水量が少なくなった。8月16日には熊谷(埼玉県)と多治見(岐阜県)で、これまでの国内の最高気温の記録を更新した。

沖縄・奄美では、6月に活発な梅雨前線の影響で降水量が多かった。7月から8月上旬までは太平洋高気圧に覆われて、晴れて暑い日が続いたが、台風や湿った気流の影響で7月中旬と8月中旬に大雨となった。

台風の発生は、6月0個(平年1.7個)7月3個(同4.1個)8月4個(同5.5個)で、平年を下回った。台風第4号と第5号が上陸し、沖縄・奄美と西日本では暴風や大雨となった。

平均気温は、全国で高かった。降水量は、北日本で少なく、東日本と西日本日本海側では平年並だった。一方、西日本太平洋側と沖縄・奄美が多かった。日照時間は、北日本と東日本太平洋側で多く、西日本太平洋側では平年並、東日本から西日本にかけての日本海側と沖縄・奄美では少なかった。

秋（9～11月）：

○気温は全国で高く、西日本は記録的高温

○降水量は西日本と東日本日本海側でかなり少なく、西日本は記録的少雨

○台風の発生は15個と平年より多く、上陸は1個

10月上旬までは、日本の南東海上の太平洋高気圧が平年に比べかなり強かった。日本付近では偏西風が北に蛇行し、寒気が南下することはほとんどなかった。このため、東日本や西日本では晴れて気温の高い日が続く、真夏日を観測した地点も多かった。また、台風第9号の影響で東日本から北日本の太平洋側は降水量が多くなったが、秋雨前線の活動は全般に平年より弱く、台風の影響の少なかった東日本日本海側と西日本で降水量がかなり少なかった。沖縄・奄美では台風や熱帯低気圧の影響で大雨となる日があり、降水量が多かった。10月中旬以降は時折寒気が南下するようになり、寒暖の変動が大きくなったが、11月前半までは天気は周期的に変わり気温は平年を上回る日が多かった。11月後半には強い寒気が南下したため、気温がかなり低くなり、北・東日本の山沿いでは11月として記録的な積雪となった所があった。

秋の平均気温は全国で高かった。特に、西日本と沖縄・奄美ではかなり高く、西日本では地域平均の統計のある 1946 年以降で最も高い記録となった。また、全国 153 地点のうち西日本中心の 27 地点で秋の平均気温の最高値を更新した。特に、真夏日が観測されるなど気温の高い日が続いた 9 月は、北・東・西日本で顕著な高温だった。

東日本や西日本では秋雨前線が不活発で高気圧に覆われて晴れる日が多かった。特に西日本では台風の影響も小さく、地域平均の統計のある 1946 年以降で秋の降水量の最も少ない記録を更新した。

台風の発生は、9 月 5 個（平年 5.1 個）10 月 6 個（同 3.9 個）11 月 4 個（同 2.5 個）で、平年を上回った。台風第 9 号が上陸後、東日本から北日本を縦断し、東日本の山沿いでは記録的な大雨となった他、沖縄では 4 個接近し、平年の 2.5 個を上回った。

平均気温は全国で高く、西日本と沖縄・奄美ではかなり高かった。降水量は、東日本日本海側と西日本でかなり少なく、北日本と東日本太平洋側で平年並、沖縄・奄美では多かった。日照時間は、東日本日本海側と西日本で多く、北日本と東日本太平洋側で平年、沖縄・奄美で少なかった。

4 全国気候表 2007年(12月20日までのデータによる)

地点名	平均気温(平年差)		降水量(平年比)		降水日数 ≥1mm	日照時間(平年比)	
	(°C)	(°C)	(mm)	(%)		(h)	(%)
札幌	9.7	(+0.8)	995.5	(91)	131	1696.6	(97)
稚内	7.3	(+0.4)	874.5	(85)	134	1523.8	(103)
北見枝幸	6.7	(+0.5)	780.5	(66)	122	1535.7	(99)
旭川	7.7	(+0.6)	864.0	(83)	149	1642.2	(103)
留萌	8.5	(+0.6)	837.5	(73)	142	1626.8	(105)
羽幌	8.3	(+0.5)	999.0	(79)	158	1609.2	(101)
岩見沢	8.6	(+0.8)	1001.5	(90)	164	1713.2	(100)
倶知安	7.8	(+0.7)	1396.5	(97)	177	1473.3	(102)
小樽	9.2	(+0.4)	1060.0	(90)	143	1664.7	(102)
寿都	9.5	(+0.7)	1114.5	(98)	152	1432.9	(98)
網走	7.2	(+0.6)	662.0	(84)	114	1878.1	(103)
紋別	7.0	(+0.5)	630.5	(77)	107	1729.1	(103)
雄武	6.3	(+0.4)	682.5	(78)	98	1683.7	(101)
釧路	7.1	(+0.7)	1100.0	(107)	80	2001.6	(104)
根室	7.0	(+0.6)	926.0	(91)	78	1987.3	(110)
帯広	7.8	(+0.9)	852.0	(93)	91	2060.7	(105)
広尾	7.8	(+0.8)	1679.0	(98)	97	1821.7	(101)
室蘭	9.5	(+0.7)	911.0	(76)	116	1702.6	(99)
苫小牧	8.6	(+0.8)	910.5	(75)	101	1687.6	(100)
浦河	9.0	(+0.9)	869.5	(80)	107	1913.7	(104)
函館	10.1	(+0.9)	1107.0	(97)	122	1727.6	(99)
江差	10.9	(+0.7)	917.5	(80)	115	1498.8	(103)
青森	11.4	(+1.0)	1243.0	(100)	145	1652.1	(99)
深浦	11.6	(+0.6)	1074.0	(74)	131	1482.5	(99)
むつ	10.4	(+0.7)	1373.5	(108)	134	1596.2	(97)
八戸	11.2	(+0.9)	1026.0	(104)	107	1820.0	(97)
秋田	12.7	(+0.9)	1485.5	(89)	151	1556.1	(98)
盛岡	11.1	(+0.7)	1344.5	(109)	120	1755.0	(103)
大船渡	12.2	(+0.7)	1435.0	(95)	98	1790.2	(100)
宮古	11.2	(+0.4)	1506.0	(116)	90	1895.2	(102)
仙台	13.4	(+0.9)	1301.0	(106)	94	1816.7	(101)
石巻	12.6	(+0.9)	1057.0	(100)	83	1922.6	(100)
山形	12.6	(+0.8)	1207.0	(110)	126	1595.9	(98)
新庄	11.6	(+0.7)	1841.5	(104)	180	1314.8	(98)
酒田	13.6	(+1.0)	1708.5	(95)	174	1554.7	(99)
福島	14.0	(+0.9)	1249.0	(114)	105	1770.5	(102)
若松	12.5	(+0.7)	1120.0	(101)	135	1658.1	(104)
白河	12.5	(+0.9)	1255.5	(92)	115	1734.8	(97)
小名浜	14.5	(+1.1)	1439.5	(105)	97	2138.6	(107)
水戸	14.8	(+1.1)	1295.5	(98)	96	1972.6	(108)
館野(つくば)	14.9	(+1.1)	1094.5	(89)	91	2030.7	(115)
宇都宮	15.0	(+1.2)	1273.0	(89)	105	1986.8	(106)
日光	7.5	(+0.4)	2187.0	(105)	124	1755.4	(101)

地点名	平均気温(平年差)		降水量(平年比)		降水日数 ≥1mm	日照時間(平年比)	
	(°C)	(°C)	(mm)	(%)		(h)	(%)
前橋	15.6	(+1.0)	1282.5	(111)	89	2157.5	(110)
熊谷	16.2	(+1.3)	1032.0	(83)	86	2161.7	(112)
秩父	14.0	(+0.8)	1206.5	(95)	90	1943.5	(107)
東京	17.3	(+1.0)	1271.0	(87)	85	1939.3	(109)
大島	16.8	(+0.7)	2082.5	(74)	100	1849.6	(107)
三宅島	18.3	(+0.5)	2288.0	(80)	108	1715.2	(102)
八丈島	18.2	(-0.3)	3212.0	(105)	153	1495.1	(102)
父島	23.4	(+0.2)	1060.0	(85)	102	1800.4	(89)
千葉	16.9	(+1.2)	1137.0	(89)	97	1926.4	(107)
銚子	16.5	(+1.0)	1681.5	(108)	103	2051.8	(109)
館山	16.7	(+0.7)	1576.0	(91)	98	1906.3	(101)
勝浦	16.6	(+0.8)	1898.0	(101)	99	1947.6	(103)
横浜	16.8	(+1.0)	1414.0	(88)	96	1989.3	(107)
長野	12.9	(+0.8)	836.5	(94)	95	1951.1	(105)
松本	12.7	(+0.8)	775.0	(77)	75	2112.7	(104)
諏訪	12.0	(+0.8)	1055.0	(81)	85	2129.2	(104)
軽井沢	9.2	(+0.9)	1278.5	(107)	95	1987.5	(109)
飯田	13.7	(+0.9)	1575.5	(99)	111	2024.5	(105)
甲府	15.7	(+1.0)	1005.0	(91)	81	2212.3	(107)
河口湖	11.4	(+0.8)	1302.5	(86)	95	1966.5	(106)
静岡	17.4	(+0.7)	1980.0	(86)	94	2069.1	(105)
浜松	17.1	(+0.8)	1387.0	(75)	91	2211.4	(106)
御前崎	17.2	(+0.8)	1889.5	(92)	94	2204.4	(103)
三島	16.7	(+0.7)	1852.5	(100)	94	1953.0	(106)
石廊崎	17.2	(+0.5)	1622.5	(89)	92	2112.6	(104)
網代	16.8	(+0.6)	1766.0	(94)	99	1817.6	(105)
名古屋	16.9	(+1.1)	1198.0	(77)	95	2083.7	(104)
伊良湖	16.9	(+0.8)	1338.0	(83)	94	2197.0	(102)
岐阜	16.7	(+0.8)	1542.0	(81)	106	2078.8	(102)
高山	12.0	(+0.9)	1381.0	(81)	120	1619.1	(102)
津	16.9	(+1.1)	1247.0	(76)	96	2096.4	(107)
上野	15.2	(+1.0)	1082.5	(79)	102	1811.6	(109)
尾鷲	16.8	(+0.6)	2656.5	(68)	122	1904.8	(103)
四日市	15.6	(+0.7)	1447.5	(83)	105	1991.4	(105)
新潟	14.7	(+0.8)	1682.0	(98)	150	1650.6	(101)
相川	14.6	(+0.7)	1207.0	(82)	137	1498.2	(91)
高田	14.4	(+0.7)	2324.0	(88)	190	1559.9	(99)
富山	15.2	(+1.2)	1669.0	(77)	152	1611.5	(102)
伏木	14.8	(+0.7)	1872.5	(89)	157	1652.0	(104)
金沢	15.4	(+0.7)	1762.5	(74)	153	1670.9	(102)
輪島	14.3	(+0.8)	1845.5	(89)	148	1572.8	(100)

地点名	平均気温(平年差)		降水量(平年比)		降水日数 ≥1mm	日照時間(平年比)	
	(°C)	(°C)	(mm)	(%)		(h)	(%)
福井	15.4	(+0.7)	1878.0	(87)	148	1654.9	(104)
	16.2)	(+0.9)	1938.5	(91)	155	1640.3	(105)
彦根	15.5	(+0.8)	1392.0	(88)	129	1868.4	(104)
京都	16.7	(+0.7)	1133.5	(74)	104	1789.1	(106)
	15.6	(+1.0)	1612.0	(92)	149	1571.8	(104)
大阪	17.9	(+1.0)	895.5	(69)	94	2085.7	(109)
神戸	17.7	(+0.9)	855.5	(68)	89	2127.1)	(111)
	15.3	(+0.9)	1814.0	(94)	146	1487.0	(100)
姫路	16.2	(+0.9)	975.0	(80)	89	1999.7	(104)
洲本	16.3	(+0.7)	957.0	(66)	83	2160.1	(108)
奈良	15.6	(+0.6)	1025.5	(77)	105	1866.3	(104)
和歌山	17.6	(+0.9)	853.5	(65)	89	2155.9	(106)
	17.9	(+0.6)	2076.0	(83)	108	2191.8)	(104)
岡山	17.3	(+1.1)	718.0	(63)	81	2017.2	(103)
	14.7)	(+1.0)	1131.0	(77)	98	1775.7	(101)
広島	17.3	(+0.9)	985.5	(64)	81	2062.1	(105)
	17.4	(+1.2)	920.5	(65)	71	2105.5	(108)
福山	16.5	(+1.1)	857.5	(74)	77	2053.2	(101)
松江	16.0	(+1.1)	1478.5	(84)	128	1775.8	(104)
	15.3	(+1.0)	1829.5	(108)	127	1649.6	(92)
浜田	16.6	(+1.1)	1426.5	(85)	107	1810.3)	(106)
鳥取	15.7	(+0.7)	1566.0	(85)	146	1730.5	(105)
	16.2	(+1.2)	1295.0	(74)	128	1797.8	(104)
境	16.2	(+1.0)	1504.5	(82)	127	1723.3	(100)
徳島	17.7	(+1.1)	803.0	(53)	80	2167.4)	(109)
高松	17.6	(+1.5)	731.5	(66)	86	2142.4	(106)
	17.3	(+1.0)	775.0	(71)	84	2184.6	(107)
松山	17.6	(+1.2)	1005.0	(78)	90	2066.7	(107)
	17.8	(+1.0)	1519.0	(93)	89	2019.0	(107)
高知	18.2	(+1.3)	1802.5	(69)	100	2171.9	(106)
	18.0	(+1.1)	1759.5	(89)	88	2176.9	(111)
清水	19.2	(+1.0)	2178.5	(91)	99	2232.5)	(104)
室戸岬	17.5	(+0.8)	1897.5	(81)	105	2210.3	(107)
山口	16.5	(+1.1)	1255.0	(67)	97	1885.0	(101)
	17.8	(+1.3)	1213.0	(73)	96	1895.0	(102)
萩	16.6	(+1.0)	1307.5	(78)	105	1772.5)	(104)
福岡	18.2	(+1.3)	1135.0	(70)	96	1959.1	(108)
	16.8	(+1.0)	1112.0	(63)	95	1878.6)	(107)

地名	平均気温(平年差)		降水量(平年比)		降水日数 ≥1mm	日照時間(平年比)	
	(°C)	(°C)	(mm)	(%)		(h)	(%)
大分	17.7	(+1.4)	1385.0	(83)	81	2063.1	(109)
日田	16.5	(+1.0)	1509.5	(82)	104	1872.8	(110)
長崎	18.3	(+1.1)	1423.0	(73)	93	1920.7	(105)
厳原	16.9	(+1.1)	2120.0	(100)	103	1801.0	(99)
平戸	17.4	(+1.2)	1391.5	(66)	96	1919.7	(110)
佐世保	18.2	(+1.4)	1429.0	(74)	94	1804.1	(96)
福江	18.0	(+1.2)	1453.5	(62)	96	1846.5	(109)
佐賀	17.7	(+1.2)	1569.5	(84)	82	2068.6	(113)
熊本	18.3	(+1.4)	1779.5	(90)	91	2094.6	(109)
阿蘇山	10.8	(+0.8)	3056.0	(95)	114	1618.2	(109)
人吉	16.6	(+1.1)	1893.5	(79)	102	1949.8	(111)
牛深	19.0	(+0.9)	1344.5	(67)	87	2091.4	(110)
宮崎	18.4	(+0.8)	2407.0	(99)	110	2219.0	(109)
延岡	17.6	(+1.0)	2336.5	(101)	95	2161.5	(105)
都城	17.5	(+1.0)	2203.0	(91)	111	2050.1	(108)
油津	19.1	(+0.9)	2632.0	(102)	113	2051.1	(108)
鹿児島	19.6	(+1.0)	2367.5	(105)	116	2056.6	(110)
阿久根	18.4	(+1.1)	1335.0	(63)	102	2111.4	(112)
枕崎	18.8	(+0.7)	2540.0	(120)	109	2031.0	(109)
屋久島	20.4	(+1.0)	4091.5	(96)	147	1648.8	(111)
種子島	20.4	(+0.5)	1998.0	(87)	118	1930.1	(105)
名瀬	22.2	(+0.5)	2501.0	(88)	142	1400.2	(102)
沖永良部	22.8	(+0.3)	1812.0	(93)	115	1866.0	(102)
那覇	23.7	(+0.8)	2654.5	(133)	127	1721.8	(96)
名護	23.0	(+0.3)	2428.5	(116)	130	1753.9	(102)
久米島	23.5	(+0.6)	2554.0	(122)	125	1687.0	(99)
宮古島	24.1	(+0.6)	1862.5	(95)	119	1727.3	(99)
石垣島	24.9	(+0.7)	2205.0	(110)	108	1718.8	(94)
西表島	24.3	(+0.7)	2435.5	(107)	123	1605.2	(106)
与那国島	24.3	(+0.5)	2085.5	(91)	137	1481.1	(95)
南大東島	23.6	(+0.4)	1319.0	(82)	109	1997.4	(98)

(注) 1. 平年値は1971~2000年の資料から求めた。

2. 「階級」の記号の意味は以下のとおり。

+:高い(多い) O:平年並 -:低い(少ない)

各階級の区分値は、1971~2000年における30年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる(各階級が10個ずつになる)ように決めた。

また、値が1971~2000年の観測値の上位または下位10%に相当する場合には階級の「+」に*を付加した。この場合には

かなり高い(多い) かなり低い(少ない)

と表現できる。

3. 値の横に) や] がある場合には、年別値を求める際に使用したデータ(月別値)に欠測等が含まれていることを示す。)付きの値(準完全値)は通常のものと同様に扱うことができるが]付きの値(資料不足値)については、値の下に記載した統計月数(統計に用いた、品質が十分な月別値の数)を参考にして、品質を確かめてから使用されたい。

なお、月別値がすべて欠測のため値が求められない場合は「×」とした。

5 観測史上1位の値を上回っている（下回っている）地点

(12月20日までのデータによる)

※過去の記録と同値は「＝」で表す。

年平均気温の最高値を上回っている地点

(これらは12月20日までの観測値を使った集計結果であるため、年末までのデータを加えた確定値では最高値を上回る地点数は少なくなる可能性がある)

順位	地点名	平均気温 ℃	平年差 ℃	これまでの最高 ℃ (西暦年)	開始年	平年値 ℃
1	帯広	7.8 =	+0.9	7.8 (1990)	1892	6.9
	秋田	12.7 =	+0.9	12.7 (1990)	1886	11.8
	白河	12.5	+0.9	12.4 (2004)	1940	11.6
	小名浜	14.5 =	+1.1	14.5 (1990)	1911	13.4
	富山	15.2 =	+1.2	15.2 (2004)	1939	14.0
	長野	12.9 =	+0.8	12.9 (1990)	1889	12.1
	宇都宮	15.0	+1.2	14.8 (2004)	1891	13.8
	諏訪	12.0 =	+0.8	12.0 (2004)	1945	11.2
	軽井沢	9.2 =	+0.9	9.2 (2004)	1941	8.3
	前橋	15.6	+1.0	15.5 (2004)	1897	14.6
	熊谷	16.2	+1.3	16.1 (2004)	1897	14.9
	水戸	14.8	+1.1	14.6 (1990)	1897	13.7
	名古屋	16.9	+1.1	16.8 (2004)	1891	15.8
	館野	14.9	+1.1	14.8 (2004)	1921	13.8
	東京	17.3 =	+1.0	17.3 (2004)	1876	16.3
	勝浦	16.6	+0.8	16.5 (1990)	1906	15.8
	千葉	16.9	+1.2	16.8 (2004)	1967	15.7
	西郷	15.3 =	+1.0	15.3 (1998)	1940	14.3
	松江	16.0 =	+1.1	16.0 (1998)	1941	14.9
	境	16.2 =	+1.0	16.2 (1998)	1883	15.2
	米子	16.2	+1.2	16.1 (1998)	1940	15.0
	舞鶴	15.6 =	+1.0	15.6 (2004)	1948	14.6
	浜田	16.6	+1.1	16.5 (1998)	1893	15.5
	下関	17.8	+1.3	17.7 (2004)	1883	16.5
	呉	17.4 =	+1.2	17.4 (1998)	1895	16.2
	岡山	17.3 =	+1.1	17.3 (1998)	1891	16.2
	大阪	17.9 =	+1.0	17.9 (2004)	1883	16.9
	巖原	16.9	+1.1	16.8 (1998)	1888	15.8
	平戸	17.4	+1.2	17.0 (2004)	1940	16.2
	福岡	18.2	+1.3	18.1 (1998)	1890	16.9
	飯塚	16.8 =	+1.0	16.8 (1998)	1936	15.8
	佐世保	18.2	+1.4	17.9 (1998)	1947	16.8
	大分	17.7	+1.4	17.4 (2004)	1888	16.3
	熊本	18.3	+1.4	18.2 (1998)	1891	16.9
	阿久根	18.4 =	+1.1	18.4 (1998)	1940	17.3
	福江	18.0	+1.2	17.9 (1998)	1963	16.8
	松山	17.6 =	+1.2	17.6 (1998)	1890	16.4
	高松	17.6	+1.5	17.5 (1998)	1942	16.1
	高知	18.2 =	+1.3	18.2 (1998)	1886	16.9
	徳島	17.7 =	+1.1	17.7 (1998)	1892	16.6

年平均気温の最低値を下回っている地点

なし

年降水量の最大値を上回っている地点

なし

年降水量の最小値を下回っている地点

(これらは12月20日までの観測値を使った集計結果であるため、年末までのデータを加えた確定値では最小値を下回る地点数は少なくなる可能性がある)

順位	地点名	降水量 mm	平年比 %	これまでの最小 mm (西暦年)	開始年	平年値 mm
1	北見枝幸	780.5	66	958.0 (1984)	1943	1178.6
	深浦	1074.0	74	1119.0 (2001)	1940	1442.9
	阿久根	1335.0	63	1352.5 (1978)	1940	2109.4
	福江	1453.5	62	1585.0 (1996)	1963	2336.5
	高松	731.5	66	737.5 (1978)	1942	1113.2
	徳島	803.0	53	941.5 (1981)	1892	1528.1

年間日照時間の最大値を上回っている地点

なし

年間日照時間の最小値を下回っている地点

(これらは12月20日までの観測値を使った集計結果であるため、年末までのデータを加えた確定値では最小値を下回る地点数は少なくなる可能性がある)

順位	地点名	日照時間 h	平年比 %	これまでの最小 h (西暦年)	開始年	平年値 h
1	父島	1800.4	89	1804.7 (1988)	1971	2024.9

(注) 値の横に] がある場合には、年別値を求める際に使用したデータ(月別値)に欠測等、統計に用いなかった値が含まれている(資料不足値)。順位は更新順位以上になることは確実であるが、統計値の使用に際しては気候表に記載した統計月数を参照されたい。
平年値とは1971~2000年の30年間の値を平均したものである。